

【家庭教育支援チーム】

(1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	別府市家庭教育支援チーム (呼称:オーリンズ別府) URL: https://rinrin-beppu.amebaownd.com/
②活動拠点	荘園公民館等
③活動範囲	別府市内・杵築市内
④組織体制	25 人 子育てサポーター20名 (うち元・現役教員3名・保育士3名・福祉委員3名、防災士1名、生活倫理相談士10名含む)
⑤活動開始年度	平成20年度
⑥問合せ先	(部署・氏名等) 「オーリンズ別府 ふわりんカフェ」 安本 英子 (TEL)090-3415-8154 (E-mail) k.eiko5867@gmail.com

(2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への学びの場の提供 <input type="checkbox"/> 保護者等への地域の居場所づくり <input type="checkbox"/> アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) <input type="checkbox"/> 自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> 保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> その他()
②活動対象 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 乳幼児 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(低学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(中学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(高学年) <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以上 <p style="text-align: right;">の子供を持つ保護者に対する活動を実施</p>

【具体的な活動内容】

◆「オーリンズ別府 ふわりんカフェ」の開催

私たちの活動する「オーリンズ別府」の「オーリンズ」という名前は、大分県内の子育て中のお母さまに明るく楽しく子育てをしていただきたい、そして仲間を増やしていきたいという思いから付けました。

もともとは「子育てセミナー」として大きな会場で開催していましたが、コロナ禍を契機に開催方法をリモートにするなどいろいろと試行錯誤を重ねました。つながりは密にしていきたいという思いから、場所等も考慮し少人数制で開催する現在の「ふわりんカフェ」へと進化し、年に12回開催しています。

対象は、妊婦さんから子育て中の保護者です。毎回、子育てに関連するテーマに沿った講師をお招きし、講話や質疑応答などを行います。

初対面の保護者同士でも悩みの相談や共有ができるよう、お茶やお菓子をいただきながら、気軽に参加できる雰囲気づくりをしています。

悩みの内容などから、個人的にじっくり話をしたいという場合には、終了後でも個別相談ができるようにしています。

【「ふわりんカフェ」の様子】



③活動内容

◆子ども倫理塾「どろりんっ子」の開催

こちらの対象は子どもで、年に12回開催しています。「学び」「遊び」「しつけ」を三本柱に、子どもたちが楽しみながらたくさんのことを学び、体験する企画です。

子どもたちに学校以外で友達ができたり、世代を超えてシニア層などと交流ができたりする場所や機会が必要だという思いから活動を続けています。

具体的には、芋ほり体験、ビーチクリーンアップ(海岸清掃)、大分県の郷土料理作り(小麦粉でつくった「だんご」をのばす、ぜんざいをつくる等)を、シニア層の方と一緒に行いました。

地域の方と交流して顔なじみになったり、保護者以外の方から励まされたりすることで、子どもたちが元気なあいさつができるようになり、すすんで関わり合いがもてるようになりました。

できるだけ子どもが主体となる活動を心掛け、子どもの自主性を伸ばし、目上の方への心配りや年下の子へのお世話などが自然に身につくよう意識して活動を行っています。

【「どろりんっ子」の様子】



④活動の成果
(活動実績がある場合)

・「ふわりんカフェ」に参加された方から「うちだけとっていた事が話に出てきて共感できて良かった」「言葉かけの大切さを聞いて良かった」等感想をいただき、笑顔で帰られる様子はこちらも嬉しくなります。また、実際に「子ども同士のトラブルを解決できた」「夫婦仲の良さを見せることで子どもが落ち着いた」と言うお母さまもいらっしゃいました。

・「どろりんっ子」では、遊びながら学ぶことで、大きな声でのあいさつや年齢の違いに応じた思いやりの行動(荷物を運ぶなど)ができるようになりました。また、ふるさとの郷土料理に感謝の気持ちをもつことができました。子どもと、親世代とシニア世代の三世代がお互いに協力し合いながら学び、参加者の心からの笑顔が多くみられました。

⑤活動財源
(複数チェック可能)

- 文部科学省補助事業(事業名:)
- 文部科学省委託事業(事業名:)
- 厚生労働省事業(事業名:)
- 地方公共団体単独事業として実施
- 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施)
- その他の支援により活動を実施
(家庭倫理の会別府市・倫理研究所)